

街路空間の定量的評価方法の提案と、その応用



工学研究科修士 2 年
村田 裕介
イタリア・スペイン
2016 年 9 月 13 日～
2016 年 10 月 1 日

渡航概要と内容

・ 渡航先

Venice (9/13～17) , Bologna (9/17～19) , Firenzie (9/19～21) , Pisa (9/21) ,
Pelugia(9/21～23), Rome (9/23～26) , Alberobello (9/26～28) , Locorotondo (9/27) ,
Martina Franca (9/27) , Bari(9/28～29), Barcelona (9/29～10/1)

・ 調査概要

各都市の街路を歩きながら、写真やメモを取り、街路空間での人々の活動、時間や天候による違い、道路の勾配、細街路の分布など、地図からは読み取れない要素を収集しました。

その際、Photo log map というアプリを用いた。これは GPS を用いて歩いた軌跡と、その際に撮った写真やメモに位置情報を付与することが出来るものである。これを用いることで、特徴的な街路の形態、人間の活動を捉えることが出来ました。それらを分析することで、魅力的な街路空間の形態的特徴を見つけ出すことを目的としました。



Locorotondo の街路と調査のログデータ

渡航を通じて感じたこと

・ 街路空間における広場の意義

ヨーロッパの街路が日本の街路と大きく異なる点は、広場の存在である。今回調査対象としたイタリア、スペインの旧市街には大小様々な広場が街の至る所に点在しており、それらがネットワークを形成している。そのため街の至る所で、人々が集まり、様々なアクティビティが生まれている。



・ 街路を利用する人、アクティビティの多さ

上記のような広場の存在だけでなく、街路空間に見られるベンチやオープンカフェなど人が滞留できるスペースが至る所に存在しています。そのため平日にも関わらず、常に街路に人が居て賑わっており、またその人々のアクティビティそのものも景観の構成要素の一つとして機能し、歩くだけで楽しいと感じる豊かな街並みを形成しているように感じました。



・街並みの統一

日本では、私有地の内部にあるガレージに停めるのが一般的であるのに対して、ヨーロッパの旧市街では車は路上に縦列駐車しています。その結果、前者では敷地の中に空白ができ、建物のラインがガタガタになってしまいます。一方で、後者は街区の外に車を停めているので建物のラインが揃ってきれいに統一された街並みが続いています。(図1) また、図2のように、それぞれ違う色で塗られた一見バラバラの街並みも、窓、屋根、建物の高さが揃っているため、統一感のある街並みを形成しています。



図1



図2

今回の経験をどのように今後生かしていくか

渡航中訪れたイタリア、スペインの伝統的な街路の定量的分析を行い、その特徴を分類もしくは一般化することで、豊かな街路空間を計画的に生み出すための方法として提案したいと考えています。

合理性や利便性ばかりを重視して計画された近代以降の都市や、郊外住宅地、また近年では災害からの安全性ばかりを重視した災害復興計画など、長い時間をかけて培われた豊かな街路空間の多くが失われてきました。今回の調査で得られた、豊かな街路空間を生み出すための要素を、都市計画に応用できる形で一般化することを目指します。

以上のことを目的として、今回得られたデータと、日本の街路の構成を対照的に分析していくことで、その特徴を抽出できればと考えております。

主な奨学金の使途

- *渡航費
- *宿泊費
- *海外旅行保険
- *現地での活動費・調査用備品購入費 など